

岐阜大学
地域科学部・地域科学研究科

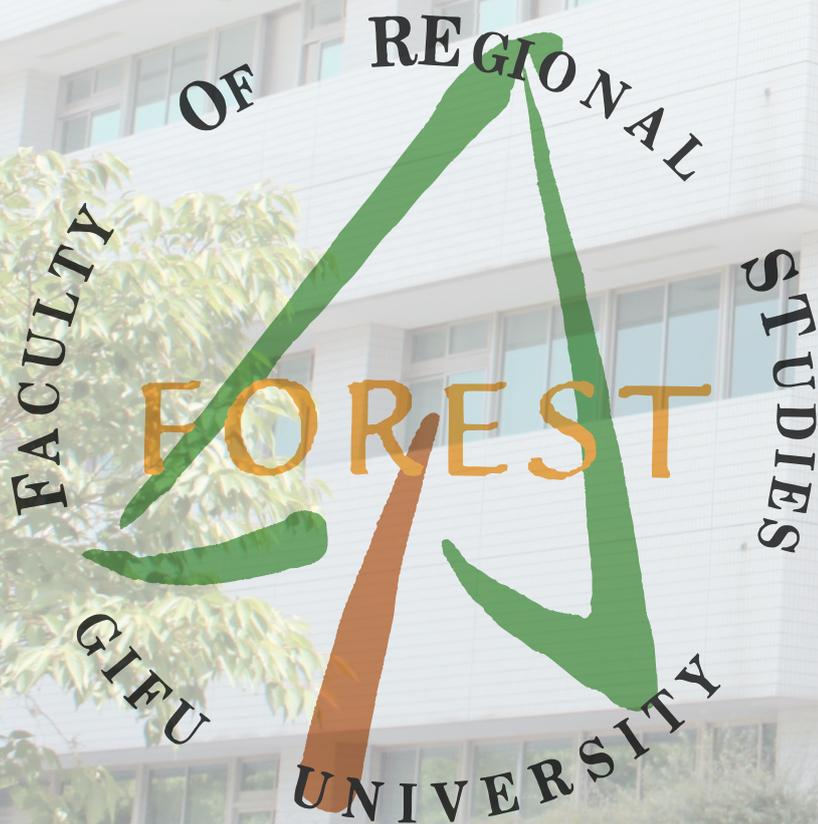
Gifu University
Faculty of Regional Studies

FOREST



contents

■ 学部長からのメッセージ	1	
学 部	学部案内	2
	学科紹介	3
	カリキュラムの概要	4
	授業科目一覧	5
	社会活動演習	6
	地域学実習	7
	専門セミナー	8
研 究 科	研究科案内	12
	専攻紹介	13
	カリキュラムの概要と授業科目一覧	14
■ 進学・就職	15	
■ 地域科学部の活動と成果	18	



地域科学部

～学部長からのメッセージ～

気が多い人のための学部です

岐阜大学地域科学部は、1996年に日本で最初に「地域」という名称を冠して設置された地域系学部です。地域社会と人間文化が抱える課題を発見し、その解決を図るために、人文・社会・自然科学の多様な専門領域による文理横断的・学際的な教育研究が行われています。地域との連携を含むその教育研究活動は、地方創生と地域発展の鍵として社会的に大きく期待されています。

地域の諸問題を多種多様な観点から総合的に捉えることのできる人材を育てる地域科学部の卒業生は、もちろん公務員になる人が多いですが、他にも地元企業を中心に、金融・保険業、卸売業、小売業、製造業など、幅広い業種に就職しています。

地域科学部の2つの学科が提供するものは、免許や資格の取得を目指してきっちり固められたカリキュラムではなく、学生自身の興味に応じて学びたい分野の学習を深めていくことができる、自由度の高いカリキュラムです。地域政策学科と地域文化学科にそれぞれ2つずつ用意された履修系統に沿って多様な分野の科目を学ぶ一方、専門セミナーと卒業研究により、文系・理系の諸分野（経済学・法学・政治学・地理学・歴史学・人類学・社会学・教育学・心理学・哲学・文学・言語学・物理学・化学・生物学など）の中から、特定の分野を深く学んで専門性を高めていきます。

地域政策学科の履修系統は、「地域政策」「環境政策」の2つです。地域文化学科の履修系統は、「生活・社会」「人間・文化」の2つです。学科選択や専門セミナーの選択にあたっては、たとえば地域政策学科の「地域政策系統」で経済学や法学を中心に学ぶ学生が、一方で「哲学」の専門セミナーに入って哲学関連の卒論を執筆するといった、学問分野の垣根を超えた選択も可能です。目標を一つだけに絞ってフルスピードでまっしぐらに進むタイプの人よりは、いろいろ寄り道しながらゆっくり研究を深めていくほうが好きな、気が多い人のための学部だと言えるでしょう。

地域科学部では多様な学問分野の科目を開講していますが、他学部や社会システム経営学環の開講科目を自由選択科目として履修したり、全学共通教育の単位互換制度を利用すれば、選択の幅はさらに広がります。岐阜大学地域協学センターが提供する「次世代地域リーダー育成プログラム」に参加して、「ぎふ次世代地域リーダー」の称号獲得を目指すのもいいでしょう。

そのほか地域科学部には、学外での実習を行う「社会活動演習」や「地域学実習」といった必修科目もあります。1年間の海外留学をしながらも4年間で卒業できる「国際教養プログラム」も用意されています。

地域の諸問題を解決するためには、あなたの理想を実現するうえでどんな制約があるかを把握し、それらの制約を取り払うにはどうすればいいかを考え、制約を取り払えないのなら、制約の中での解決策を模索することが重要です。お金も人手も足りない中で、たとえ理想には程遠くても、最善の策を見つけるために試行錯誤を繰り返す必要もあるでしょう。その一方で、制約と思われたものを逆手に取って、常識を打ち破り、誰も思い付かなかった意外な解決策を提案できることもあるでしょう。「～でなければならない」という常識に縛られて窮屈な思いをしている地域の人々を救うのは、非常識の提案ができる人です。あなたも地域科学部で学び、地域社会に対して生活の新しい遊び方を提案してみませんか。

なお地域科学部の上には、地域政策専攻と地域文化専攻から成る大学院の地域科学研究科（修士課程）があり、ここには地域科学部の卒業生だけでなく、他大学の卒業生や社会人、そして海外からの留学生が集まっています。地域科学研究科では、より高度な専門応用能力とより幅広い国際性の涵養を目指す教育・研究を通じて、高度専門職業人や研究者を育てています。



岐阜大学 地域科学部長
大学院地域科学研究科長

内田 勝

地域科学部

Admission Policy

アドミッション・ポリシー（入学者選抜方針）

■教育理念・目標

地域科学部は、「地域」がキーワードとなるさまざまな社会的及び文化的課題について、人文科学、社会科学ならびに自然科学の基礎学力をもとにして、総合的に考究する能力を育てることを目標としています。これにより発展的な地域創成や、豊かな社会形成に貢献でき、リーダーシップを発揮できる人の育成を目指します。

■求める学生像

このような理念・目標のもと本学部の学生には、主に次のような資質を持っていることを望みます。

1. 人間社会の営みや自然との関わりに深い関心を持っている。
2. 物事をさまざまな視点から総合的かつ論理的に考えることができる。
3. 自ら課題を見つけ、その課題に対して積極的に取り組もうとする意欲を持っている。
4. 他者の考えをよく理解し、自己の意見を表現する能力を持っている。
5. 幅広い学問分野を学びながら、自己の専門分野を次第に決定してゆきたいという意欲を持っている。

Curriculum Policy

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

文系分野を主とする学生は理系の知識を、理系分野を主とする学生は文系の知識も兼ね備えることで、総合的な視野と幅広い知識を修得します。このために、人文科学、社会科学、自然科学及びそれらの融合領域に関する多彩な科目を開設しています。

一定の分野に対する専門性を高めるため、また、学生自身が学問的関心や興味のある分野を選択して学ぶことができるように、学習の指針として4つの履修系統（地域政策系統、環境政策系統、生活・社会系統、人間・文化系統）を提示します。これらの4つの履修系統に即した学習を促すことにより、地域の個別課題に対する分析力および対応力を育てます。また、多文化共生の社会で活躍できるようにするために、複数の言語を使った学修を行い、国際教養プログラムなどで国際的な視野や多様な地域の文化への関心を培います。

Diploma Policy

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

教育課程において所定の単位数を修得するとともに、地域の社会や文化が抱えるさまざまな問題を、地域に根ざし地域から構想することで解決し、暮らしやすく平和で文化的に高度な地域社会を創り出すために必要な専門的能力を備えた人に学士の学位を授与します。

※抜粋（全文は本学部HPをご覧ください）

学科紹介

地域科学部は、地域が抱えるさまざまな問題を解決し、暮らしやすく平和で文化的な地域社会を創出できる人材の育成を目的とした、日本で初めて「地域」という名称を冠した学部です。学ぶ範囲は広くかつ多様ですが、2年前学期からは地域政策学科、または地域文化学科に所属し、専門性を高めて行きます。中心的に学びを深める4つの履修系統に軸足を持ちながら関連するいろんな分野の勉強をしていきますので、深い専門性と同時に広い視野を身につけることができます。



地域政策学科

主に社会科学と自然科学の協同により、自然環境を含んだ地域社会の構造的な把握と分析そして政策形成の能力の習得を関連づける教育研究をおこない、持続可能な社会を展望しつつより良い地域社会の構築を提言できる人材の育成を目指します。

地域政策系統

現代の地域が抱える政策課題は多様化しており、一つの専門的能力だけでは対応しきれなくなっています。本系統では、そうした政策課題への多様なアプローチを重視し、経済学・地理学・法学などの専門分野をバランス良く配置すると同時に、フィールドワークにも力を入れています。それらを通じて、地域を総合的に理解する視野を広げるとともに、地域産業振興・まちづくり・自治政策などに実践的に取り組む人材を育成することを狙いとしています。

環境政策系統

本履修系統では、物理学系、化学系、生物学系、都市・建築系などの理科系の基盤的な学力を身につけます。自然界の原理と法則、自然・地球環境、生活・都市環境を、数理的考察、フィールド調査、物理学や化学の実験、コンピュータシミュレーション等を通じて深く理解したうえで、科学的知識や技術を環境政策へ生かすことができる人材を育成する教育内容を、体系的に構成しています。

地域文化学科

主に人文科学と社会科学の協同により、人間社会における思想や文化的な表現、及び歴史的な経験や行動などの規範と原理を分析し把握する教育研究をおこない、人間社会に関する確で深い洞察力を備え、社会が抱える多様な課題の解決を展望できる人材の育成を目指します。

生活・社会系統

大きく変貌をとげようとしている地域社会の現実及び地域社会の発展に関する課題を見出すためには、そこで暮らす人々の生活実態を深くとらえることが求められます。本履修系統では、社会調査や実習を通して地域住民と交流するとともに、社会学・人類学・歴史学などの専門的知識を学び、現在およびこれからのコミュニティ創造のための担い手を育成する教育内容を構成しています。

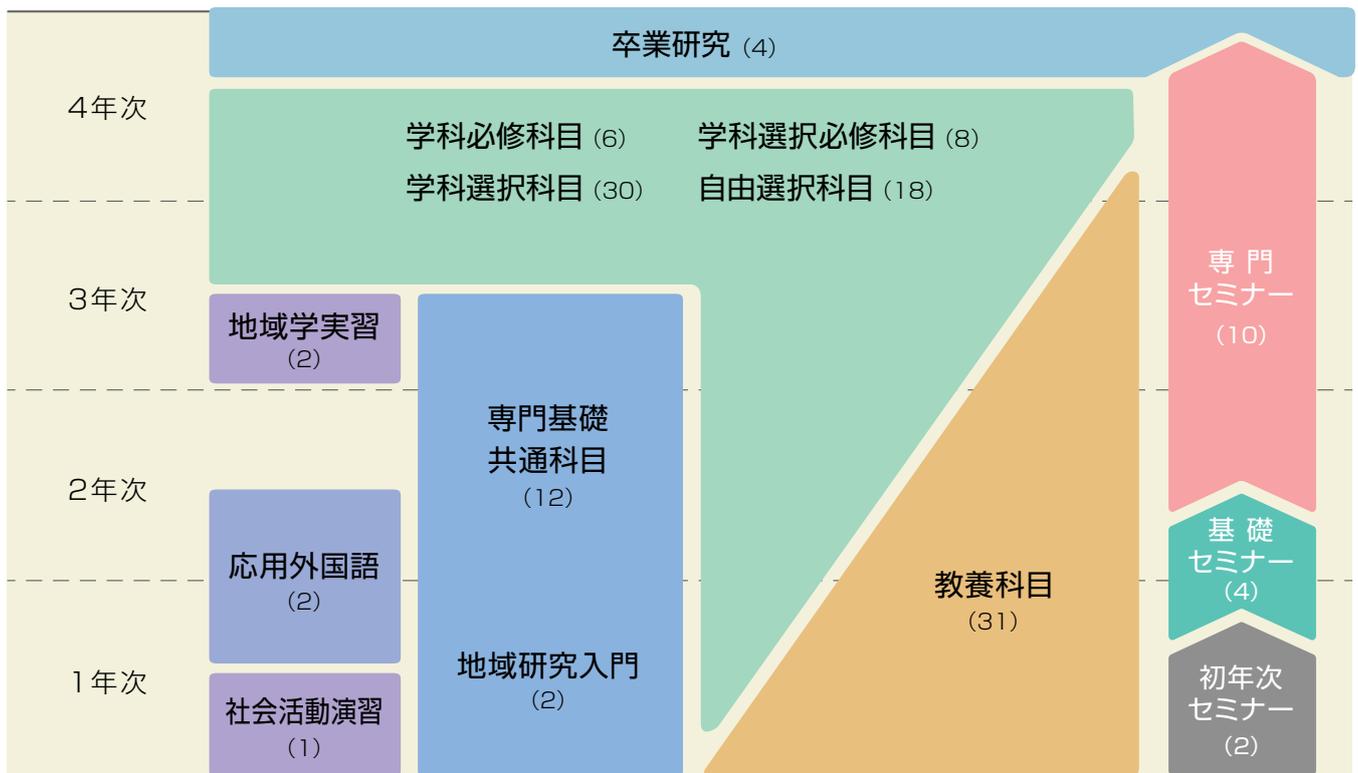
人間・文化系統

地域コミュニティは、独自の伝統文化を継承し発展させると同時に、他の社会や文化と積極的に交流することによって、さらなる活力を生み出す可能性を秘めています。本履修系統は、この視点にもとづいて、グローバル化の時代にふさわしく、多様な言語・思想・文化を学ぶことで、地域文化の創造的な担い手を育成する教育内容を構成しています。

カリキュラムの概要

本学部では、人文・社会・自然の諸科学全般に関する多彩な科目を開設し、総合的な視野から幅広い知識を得ることができる一方で、2年次からは自分が特に興味を持った分野を専門的に学ぶことができるカリキュラムとなっています。また、実際に地域社会の中に出向き、地域が抱える課題に取り組む社会活動演習や地域学実習は全学生の必修科目となっており、現実即した「生きた」知識も学ぶことができます。また、4年間を通じて、少人数でのセミナー教育を行うなど、さまざまな特色ある教育プランを用意し、実践しています。

地域科学部でどんなふうに学ぶんだろう？



()は卒業に必要な修得単位数

国際教養プログラムとは？

現代に生きる人々は、グローバル化という大きな流れの中で進むべき道を見つけることが求められます。そのためには、幅広い教養にもとづいた、自分の暮らすコミュニティおよび異文化に対する深い理解が必要となります。本プログラムでは、一年間の海外留学や文理横断的な知識の習得などを通じて、地域社会と国際社会の双方で活躍できる能力を育成していきます。

具体的には右表に示すように、外国語運用能力を高める科目群Aに加え、科目群B,Cの人文・社会及び自然科学の諸分野の学習を通して幅広い教養的学識を身につけます。外国人留学生には、日本に関する知識を深める科目群Dが用意されています。

- 国際教養プログラムには地域科学部の両学科の学生が参加できます。
- 日本人学生は、海外の学術交流協定大学へ一年間の留学（原則として2年生後学期～3年生前学期）を必須としています。留学期間を含めて、4年間で卒業が可能なプログラムとなっています。
- 留学のためには、協定大学の求める語学力水準（TOEFL、IELTSなど）に達していることが求められます。留学の申請は、1年生の9月に行います。
- これまでにプログラムに参加し留学した学生は、2017年度～2019年度は30名、2021年度は6名、2022年度は7名に上ります。

授業科目一覽

学科		地域政策学科			地域文化学科				
履修系統		地域政策		環境政策	生活・社会		人間・文化		
専門基礎科目	必修	初年次セミナー(教養)			地域研究入門	社会活動演習	応用外国語	基礎セミナー	
	専門基礎共通科目	A群(理系科目)	記述統計学	微分積分I・II	線形代数I・II	物理学I	化学I		
	B群(文系科目)	地理学 教育・心理学	政治経済学 近・現代史	現代経済学 哲学概論	法学 文学概論	現代社会概論 言語学概論			
専門科目	必修	地方行政論	地域づくり論	推測統計学	社会調査法			ジェンダー論	言語文化論
	選択必修	計量経済学 日本経済論 地域経済論 経営学 憲法 行政法 民法 行政学	物理学II 環境物理学I 化学実験 都市環境工学 環境調査法		地域社会学 地域史 メディア論 文化人類学 人間発達概論			社会哲学 日本文化論 ヨーロッパ文化論 アメリカ文化論 アジア文化論 社会言語学	
	選択	国際経済論 比較経済体制論 地域産業論 経済政策 社会政策論 労働経済学 会計学 マーケティング論 金融論 環境経済学 地方自治法 労働法 現代政治学 政治過程論 財政学 地方財政論 刑法 裁判法 環境法 地域創生論	応用解析学 数理計画法 物理学III 環境物理学II 環境物理学III 化学演習 物理化学 生物学I 植物生態学 動物生態学 環境保全論I 環境保全論II システム工学 居住環境と心理 地域解析学 地域創生論		障害者福祉論 教育と社会論 社会福祉学 生活支援論 ジャーナリズム論 労働社会学 インターネット・リスク社会論 ジェンダー史 コミュニケーション論 現代心理論 地域創生論			言語と社会入門 口頭表現技法論 近・現代思想論 倫理学 言語哲学 言語理解論 文献学 文化思想史 文化解釈論 表象文化論 文学批評論 言語意味論 言語生活論 博物館学 地域創生論	

※上記科目については、一部修正する可能性があります。

		科目群A	科目群B	科目群C		
専門基礎科目	応用外国語	応用外国語I/II 応用外国語A/B				
	基礎セミナー	言語と社会A/B				
	専門基礎共通		物理学I 哲学	記述統計学 線形代数I	微分積分I	
専門科目	地域政策学科		日本経済論 憲法 化学実験	地方行政論 環境調査法 生物学I 居住環境と心理	民法 地域産業論 社会政策論	物理学II 化学演習 推測統計学
	地域文化学科	言語と社会入門 口頭表現技法論	アメリカ文化論 近・現代思想論 言語意味論 文化人類学	ジェンダー論 言語理解論 言語文化論	社会哲学 社会調査法 アジア文化論	社会言語学 メディア論 ヨーロッパ文化論

社会活動演習

1年生全員の必修科目である社会活動演習は、実習受け入れ先から多くのご支援を頂きながら実施される本学部独特の実習です。学生たちは、岐阜県域の企業・行政・福祉・環境・博物館などの現場における体験・実習を通じて、地域の諸課題を肌で感じながら理解を深めます。そして、岐阜大学が教育目標として掲げる3つの力と9つの要素で構成される基盤的能力、つまり自立的行動力(計画力、実行力、管理力)、コミュニケーション力(傾聴力、発信力、状況把握力)、総合的判断力(課題発見力、創造的思考力、論理的思考力)の育成のための基本的な構えとセンスを養う場として本演習を位置づけています。

具体的には、学生たちは下記の8つのプログラムのなかから希望するものを選択し、それぞれの担当教員の指導のもとで事前学習、原則として夏季休業期間を利用した数日間の実習に参加することになります。いずれのプログラムも「書を捨てフィールドに出ること」にしており、参加学生たちは教室のなかでは決して体験することのできない「生きた知恵と知識」を体得します。

2023年度実施プログラム(指導担当教員)

- A : 実務家の講習及び刑務所・少年院の見学 (三谷 晋)
- B : 山間地の小学校を起点とした地域づくり (南出 吉祥)
- C : 「まちを研究すること」を考える：
岐阜市内における景観調査と利用者の行動観察 (合掌 顕)
- D : 子どもの自然体験教室のサポーター (府川 純一郎)
- E : 市民ラジオ番組の制作 & 番組企画・出演 (野原 仁)
- F : 岐阜市歴史博物館で作業する (加藤 公一)
- G : ひとり親家庭に関する実態と発達について学ぶ (峰尾 菜生子)
- H : フランスの球技・ベタンクを知る (ゲラン,ジル)



市民ラジオ番組の制作 & 番組企画実習の様子



岐阜市歴史博物館で作業する

学生の声

2022年度入学 廣瀬 佳歩さん

社会活動演習では、NPO法人「長良・自然とくらし楽校」が主催する自然体験教室や「子どもエコクラブ」のイベントで主催者や参加者の子ども達のサポートをしました。自然体験教室の天神川での生き物観察では、指標生物を見つけ、実際に捕まえて観察し、川の水質を知るといった活動のサポートをしました。子どもたちの安全を第一に考え、子どもたちの自然体験・学びをより良いものにするのを心がけながら活動を行いました。秋には鎌を使って稲刈りを行ったり、芋掘りの体験をしたりしました。社会活動演習を通して、地域における多様なNPO活動を知り、理解を深めることができました。また、実際に岐阜市内・市外各地に行って活動をすることで、地域の自然の多様性や豊かさ、魅力、現在抱えている問題などを認識し、環境保全、環境政策について考える良いきっかけとなりました。

地域学実習

地域学実習は、3年生の前学期から夏休みにかけて実施されます。講義や専門セミナーで学んだことをふまえて、フィールドに出て調査や活動を実施し、その成果をレポートにまとめるといった一連の作業を通じて、地域の課題の発見と解決に向けて主体的かつ協働的に学ぶ力を養うことを目的とした授業です。

1年生の必修科目である社会活動演習が「体験」を重視するのに対して、地域学実習では授業で2年間学んできたことを前提に、具体的な事実を実証的に解明する「方法」を学ぶことになります。受講学生は下記の7プログラムのなかから興味関心のあるものをひとつ選択し、実習に参加します。



岐阜周辺における地域づくりの比較調査風景

2023年度実施プログラム(指導担当教員)

- 『障害者雇用と福祉マネジメント』(小西 豊)
- 地域物流の基本、課題、取組みについて考察(應 江 黔)
- 「身近なモノ」を理解する(十二村 佳樹)
- インターンシップを通じた行政組織や企業の調査(伊原 亮司/宇山 翠)
- 美濃市牧谷地区の昔と今を知る(堀江 未央)
- 岐阜市歴史博物館での史料整理実習(芹口 真結子)
- 外国人労働者の就労問題を学ぶー技能実習生と日系労働者(鈴木 力)
- 東海圏の地場産業の実態分析(大澤 圭吾)



下呂市飛騨金山菅田の昔と今を知る

実習の成果は「地域学実習報告書」にまとめられるだけでなく、調査でお世話になった地元住民の皆様に対して、さらには他大学で地域学を学ぶ学生との合同研究発表会の場で公表されます。このような場でプレゼンテーション能力を身につけることも地域学実習の目標のひとつです。

学生の声

2022年度入学(3年次編入) 松岡 正さん

私たちの参加した地域学実習では、下呂市上原地区の昔と今を知る、というテーマでフィールドワークを行いました。まず『下呂町上原誌』の輪読を行い、衣食住・宗教・交通・冠婚葬祭など上原地区の様々な暮らしや歴史について学び、その中で各自が興味を持ったテーマを選択し、他の文献調査や下呂市ウェブサイトを参考に内容を深掘りしました。さらに、情報を上手く聞き出せるように、質問事項を作成し、ロールプレーイングを重ねました。こうして16名の学生が夏季休暇中の4日間現地実習を行ったのですが、インタビューに答えてくれた38名の方々は、具体的に興味深い話を用意してくれており、説明資料を作成してくれた方もいたので、緊張していた学生たちも、話に引き込まれ、積極的に質問し、約束の時間を延長する状況でした。実習は、文献では得られない生きた情報に触れ、多角的なモノの見方に気づく事が出来る有意義な時間でした。また、同じ地域を長い間集中して深く調査するという、教室では得られない緊密な時間を共有する事で、ゼミやサークルとは別の友人関係を築く人もいました。



専門セミナー

2年次後学期から始まる専門セミナーは、地域科学部における教育の基軸となるものです。少人数で開講され、各教員それぞれの専門分野に関連する領域について、学んでいきます。学生の関心・能力に応じたきめ細やかな指導が、4年次の後学期まで継続して、行われ、卒業研究も行っていきます。

各専門分野によって、運営形式はこの専門セミナーでの学びを基に様々ですが、どのセミナーも、学生の関心により近いテーマでの研究を行うため、講義や実習とは異なったおもしろさがあります。セミナーでの議論や思考を通して、問題を発見し、解決する能力を養成することもねらいとしています。

一口に地域科学といっても、そこには対象となる現象が多種多様にありますから、専門セミナーで学ぶテーマは、『地域』を考える上での軸足となります。学生にとっては、セミナー以外の科目は、セミナーを中心に有機的に関連付けられる、ともいえるでしょう。

例えば…

■ 小西 豊セミナー

セミナー(演習)の定義は「大学の教育方法のひとつである。教員の指導の下に少数の学生が集まって研究し、発表・討論などを行うもの」です。その特徴は、専門的研究を進めるために不可欠な、少人数のクラス規模とコミュニケーションの重視(双方向の授業方式)にあります。

私のセミナーでは3年生は「日本人の賃金はどうすれば上がるのか」「物価とは何か」「模倣と創造性:パクリ経済」などをテーマに発表・討論を行っています。4年生は「SDGs」「外国人技能実習制度」などをテーマに卒業研究に取り組んでいます。

毎年12月には京都大学、大阪大学、新潟県立大学、立命館大学、関西大学、松山大学で経済学、経営学を学ぶセミナーとの合同研究発表会を開催しており、そこでの他流試合、切磋琢磨がよい刺激となり、無事に卒業研究を完成させることができる契機となっています。



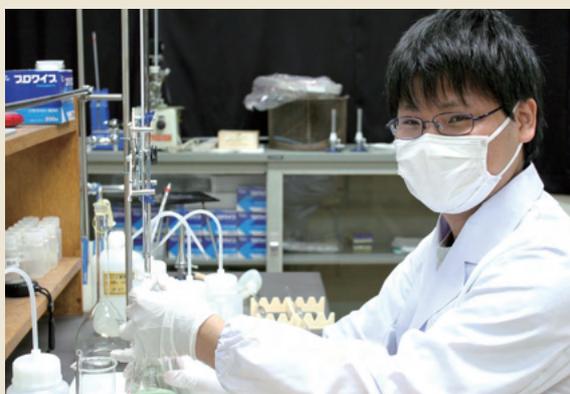
■ 和佐田 裕昭セミナー(量子化学)

化学現象の本質は何でしょうか？分子のエネルギーの観点から考えてみましょう。分子のエネルギーは、並進エネルギー、回転エネルギー、振動エネルギー、電子エネルギーからなります。

身近な水分子のエネルギーについて調べてみると、電子エネルギーが、全体の約99.97%を占めることがわかります。このことは、他の多くの分子にも成り立っています。

これは、化学現象の本質に電子の振る舞いが大きく寄与することを意味しています。つまり、化学物質から構成されているこの世のほとんどを支配するのは、電子であると言えるのです。

化学とは、分子中の電子の様子を探り、電子の振る舞いを自由自在にあやつる手だてを考える学問です。その方法には色々ありますが、私たちのセミナーでは、電子の様子を探ったり、その振る舞いをあやつる手段を、電子状態理論の立場から学んでいます。成果のひとつとして、最近、新しい毒性予測ソフトを開発して世界に提供し始めました。



■ 牧 秀樹セミナー(言語学)

私は、牧秀樹研究室で言語学分野を学んでいます。世界には様々な言語が存在しますが、どんな言語でも自分の分かる言語に翻訳することができます。また、母国語はいつの間にか話せるようになっていきます。私たちが当たり前のように使っている言語にはこうした不思議が多くあります。牧研究室には多くの留学生が在籍しており、まるで自分が留学しているかのような気持ちで異文化との交流ができることが魅力です。牧研究室はアットホームな雰囲気なので楽しく学ぶことができます。

牧研究室では、統語論や生成文法に関する文献を読み進めたり、牧先生の研究についての文献を読みます。英語で書かれているものばかりなので簡単ではないですが、留学生、研究生、先生たちが優しく教えてくれます。



■ 峰尾 菜生子セミナー(心理学)

本セミナーでは、現在の社会に生きる人間の心理について、主に発達心理学や社会心理学の知見をもとに学び、研究を行っています。人の心の動きに関する学問は、身近に関心を持ちやすいかもしれませんが、一方で、人の内面に焦点を当てるため、あらゆる問題を個人の能力や特性の問題にしてしまう(そのように使われてしまう)危うさもあります。地域科学部ではさまざまな分野の学問を学ぶので、人間の心理を個人の問題としてのみとらえるのではなく、社会構造や自然環境などとの関係でとらえようとする姿勢が強い学生が多いです。他分野の学びを生かしてより多角的に人間の心理をとらえられるのが、地域科学部で心理学を探究していく面白さの一つです。

本セミナーでは、まず、多様な人々の心理を具体的にイメージできるように、ルポルタージュ的な文献の輪読からスタートします。学年が上がると、さまざまな心理現象を科学的に分析する力を身につけられるように、より理論的な心理学の論文や本を読んでいきます。文献を読んで議論するだけでなく、共同研究も行っています。昨年度の共同研究では、「親の養育態度と過剰適応傾向の関係」をテーマに、アンケート調査を行いました。卒業論文では、各セミナー生が計画を立てて調査を実施し、その結果を分析、考察します。

セミナー生の関心は、第二反抗期とアタッチメントの関連性、「敏感な人」と社会の関係性、過剰適応と性格、同調圧力からつくられるコミュニティ、児童期からの好きなものと精神安定度の関係など多様です。学生の関心を中心に据えながら、現在の社会に生きる人間の心理を具体的につかみ、科学的に探究する力を身につけられるよう心がけています。



学生の声

2021年度入学 岩田 彩悠人さん

私は小牧ゼミで憲法について学んでいます。このゼミでは、自分の関心のあるテーマを選択し、それに関する論文や判例を読み、憲法の観点から具体的な問題を考察しています。例えば、出生前診断や安楽死、生徒の政治活動、最高裁判官の国民審査など、ゼミで扱われるテーマは多岐にわたります。ゼミでは、毎回、報告者の問題提起をきっかけにして、白熱した議論が展開されています。また、法学・政治学系の4つのゼミが集う合同ゼミも開催されており、ゼミ横断的な研究活動も合わせて行われています。



私は、現在、卒業論文の執筆に向けて、同性婚禁止の合憲性をめぐる議論を調査しています。このテーマに関しては、最近、裁判例が立て続けに出されていますが、研究を進めるなかで、憲法論だけでなく、婚姻制度の存在意義など、哲学的な観点からの考察も必要であることを実感しました。こうした気づきを得られる点に、学際的な性格を持つ地域科学部の魅力(の一つ)があると考えています。

学生の声

2020年度入学 竹中 駿紀さん

私は應ゼミで「交通と地域」について学んでいます。交通には公共交通機関や自動車などがありますが、私は特に「自転車の使いやすい都市空間」について研究しています。ほかのゼミのメンバーの研究テーマとしては、「公共交通とまちづくり」、「交通・都市構造と企業立地の関係」、「自動車とエネルギー」などで、各々が最終的には卒業論文の執筆を行っていきます。



このゼミでは各自の研究テーマについて調べたことを発表し、そこから議論を交わしていきます。同じゼミでも研究していることは様々であるため、議論を通じて自分にはなかった新たな視点が多く得られ、一見関係のなさそうな分野でも自分の研究との共通点が見つかることもあり、学問はつながっていると実感します。

私は天気良ければ岐阜駅から自転車で通学をしています。その際に、環境にも健康にも良い自転車をもっと使いやすいまちにするにはどうすれば良いのだろうかと思いました。そのような疑問・興味から学びにつなげていくことが、ゼミの一番のおもしろさだと思います。



地域科学研究科

Admission Policy

アドミッション・ポリシー（入学者選抜方針）

■ 教育理念・目標

社会、人間のあり方及び自然に関する知見を有し、深い専門性と実践的、創造性豊かな能力によって、自然と調和した地域社会の基盤形成に寄与する人の育成が本研究科の教育目標です。

■ 求める学生像

地域社会、自然環境、人間社会のあり方を探究して、本質的な問題を発見し、それを総合的な視点から解決しようとする意欲と、専門分野の高い知識に加えて、複合的な視野と豊かな学術的知見を追究しようとする意識を持っていることを望みます。具体的には、次のような人を期待しています。

- ・ これまでの知識や経験をもとに、さらなる学問的専門性を身につけ、地域や社会への貢献を考える人
- ・ 自治体、福祉団体、商工会議所などの文化政策・行政政策担当者として活躍しようとしている人
- ・ 地域調査関連の企業・研究機関の研究者や企業の企画調査担当者として活躍しようとしている人
- ・ まちづくり等の地域活動組織で活躍しようとしている人
- ・ さらに高度の知見と専門性の獲得のために博士課程進学や海外研究留学を目指そうとする人
- ・ 国際的に、さまざまな国や地域でその調和ある発展、振興に貢献しようとする人

Curriculum Policy

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

- ・ 人文科学・社会科学・自然科学及びそれらの融合領域分野を幅広く学びながら自然と調和した地域社会について、専門的に探求することのできる高度な能力を育成します。
- ・ 社会生活と人間文化について広く学びながら自立的で協同的な社会システムとそれに相応した文化や社会的関係の在り方を専門的に探求することのできる高度な能力を育成します。
- ・ 地域社会の経済、行政、自然、生活、思想や文化を研究する授業科目を履修することによって、地域社会や人間文化の諸課題を総合的な視点から追究する新しい地域研究の方法を修得します。

Diploma Policy

ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与に関する方針）

教育課程において所定の単位数を修得するとともに、地域の社会や文化が抱えるさまざまな問題を、地域に根ざし地域から構想することで解決し、暮らしやすく平和で文化的に高度な地域社会を創り出すために必要な、より幅の広い視野、より高度な専門応用能力、より大きな国際性を備えた人に修士の学位を授与します。

※抜粋（全文は本研究科HPをご覧ください）

専攻紹介

この研究科の主要目的は地域社会が抱える多くの問題をどのようにとらえ、いかなる方向の解決策がありうるか、ということについて研究・教育することです。地域の個性は複雑であり、それゆえ課題に対し定型的な答えが用意されていることはまれです。そこに地域科学という若い学問が必要とされる根拠があります。学部で勉強したことをさらに深めたいという人はもとより、予備知識は乏しくても暮らしやすい地域づくりに何らかのかたちで貢献してみたい、という想いの方を歓迎します。私たちスタッフとともに考え、ともに活動・調査してみましよう。



地域科学
研究科

地域政策専攻

経済・行政・自然環境の諸領域を中心に広く学びながら、生態系と調和した循環型の地域社会について専門的に教育・研究します。

● 経済社会領域

経済学の基礎理論、経済政策、ならびに地域づくり、まちづくり、農村振興そして両者が交わる地域経済や産業政策などを研究します。

● 行政社会領域

法学の理論と行政法、政治学、および社会政策や地方財政などの領域からなり、行財政政策にまたがるテーマを学びます。

● 自然環境領域

自然科学の発展した理論と、生態学、環境科学などを中心としており、循環型社会づくりに向けた研究を行います。

地域文化専攻

社会生活や人間文化にかんする諸領域を中心に広く学びながら、新たな人間社会とそれに照合した人間のあり方を専門的に教育・研究します。

● 社会生活領域

社会学・社会福祉学・歴史学・人類学等をベースにしなが、人々の生活意識の解明を通して、望ましい生活環境づくりに向けた研究を行います。

● 人間文化領域

哲学・文学・言語学・教育学・心理学等をベースにしなが、文化的存在としての個人および社会の望ましい姿を追求します。

カリキュラムの概要

- **特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ**：指導教員と相談して修士論文のテーマを決め、その準備・作成を行います。
- **特別研究**：指導教員の指示を受けて、1年次前期の夏季休業中などに集中的に行います。
- **選択必修科目**：地域政策専攻で3(経済社会、行政社会、自然環境)、地域文化専攻で2(社会生活、人間文化)、計5つの教育研究領域に各2科目ずつの選択必修科目があり、この中から2科目(4単位)以上を履修します。
- **自由選択科目**：各教育研究領域ごとに4～14の自由選択科目があり、所属する専攻の科目として6科目以上と、この他に所属専攻もしくはもう一つの専攻の科目のうちから、2科目以上、併せて8科目(16単位)以上を履修します。専門的な分野と幅広い関心に合わせて授業を選べます。非常勤講師による特別講義の他、学内の他の研究科や、他大学の大学院(互換協定を持つのは岐阜経済大学)の単位も認められます。

授業科目一覧

専攻	地 域 政 策			地 域 文 化		
領域	経済社会	行政社会	自然環境	社会生活	人間文化	
選択必修科目	理論経済学特論 比較経済体制論特論	行政法特論 行政学特論	環境物理学特論 環境心理学特論	メディア論特論 生活指導論特論	価値哲学特論 文化解釈論特論	
自由選択科目	計量経済学特論 地域産業特論 経済地理学特論 中小企業論特論	憲法特論 社会政策特論 民法特論 地方財政論特論	保全生態学特論 数理システム特論 数理化特論 環境計算法学特論 都市環境工学特論 数理物理学特論	地域社会学特論 社会福祉論特論 労働社会学特論 歴史学特論 現代史特論 地域福祉論特論 社会人類学特論 文化人類学特論	日本思想史特論 生命倫理学特論 自然哲学特論 健康教育学特論 日本近代文学特論 表象文化論特論 英語圏文学特論	心理学特論 言語文化論特論 言語教育学特論 ドイツ文学特論 社会言語学特論 中国文学特論 中国語学特論
地域科学特別講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ						
特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ			特別研究			

学生の声

2022年度入学 趙 睿祺さん



私は地域科学研究科2年生の趙睿祺(チョウ エキ)と申します。中学生の時、日本のアニメから日本文化に興味を持ち、高校と大学の時に3回日本を旅行しました。そして日本の文化、生活を体験した後、さらに日本に対する興味が深くなり、日本の大学院に進学を決めました。

私は北京化工大学で機械設計製造とロボットデザインを専攻し、また2017年にはアメリカのデトロイト大学に留学してロボットデザインを学びました。一方で私は昔から人の心理にも関心があり、特に環境と人間の関係に興味を持っています。大学院では商業店舗の音楽が来店行動に与える影響について研究をしています。この研究からさらに人の心理の探究と日本文化の理解について、深く勉強したいと思います。

進学・就職概要

本学部卒業生の就職状況の特徴は、(1)公務員となる学生の割合が高いこと(2022年度卒業生では全就職決定者104名のうち35名(33.7%)、(2)地元企業への就職が多いこと、(3)金融・保険業への就職は多いものの、卸売業、小売業、製造業、情報通信業、運輸業等、多くの業種に幅広く就職していることが挙げられます。

このように卒業生たちがさまざまな業種に進む傾向にあることは、総合的・学際的な学部である本学部が目標とする学生教育(人文、社会、自然科学の多種多様な観点・立場から、地域の諸問題を総合的に捉えることのできる人材を育てる教育)のひとつの成果であるともいえます。

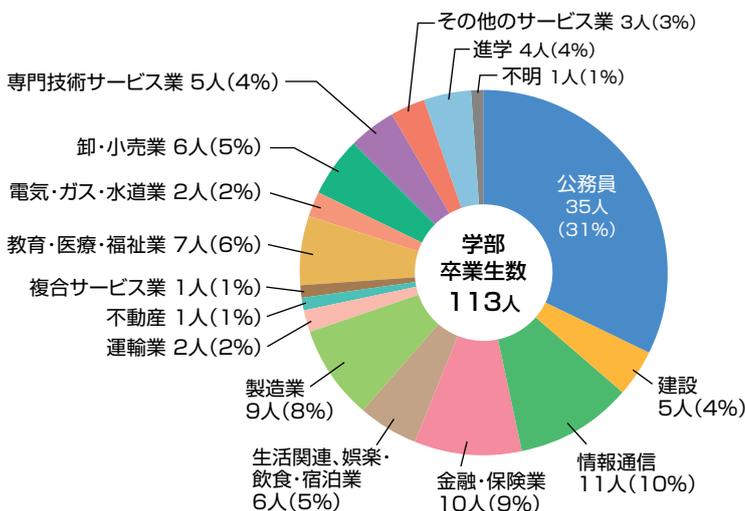
就職状況は他大学と比べても非常に良好といえます。就職不況の際にも本学部の就職状況は全国的にみても高い就職内定率を達成しており、ポテンシャルの高さを示してきました。近年は、新型コロナウイルス感染症流行の影響により大学生の就活は困難な状況に置かれてきましたが、本学は良好な傾向を維持することができました。就職内定率(就職希望者における決定者の割合)は2022年度卒業生では99.0%となっています(2018年度から2022年度の過去5年間を平均すると、卒業時の就職内定率は平均で97.8%です)。

こうした好調な就職状況の背景には、本学部の学生自身が熱意を持って就職活動に取り組んでいることがまず挙げられますが、そのほかにも、学部として学生の活動をサポートするために指導教員をはじめ、就職担当委員の配置によって学生からの相談に迅速かつきめ細やかに対応していること、大学全体のガイダンスとは別に学部独自の就職ガイダンスを実施していること(就職活動を経験した本学部学生の生の声が聴ける等)、数年に一度、卒業生が就職した主な企業に全教員が手分けして出向き、企業担当者から卒業生の仕事ぶりや採用状況を調査・検討していること、などの取り組みがなされています。さらに卒業後のサポートもしています(就職後のトラブルへの対応をしたり、転職や仕事上の悩み等の相談に応じたりしています)。

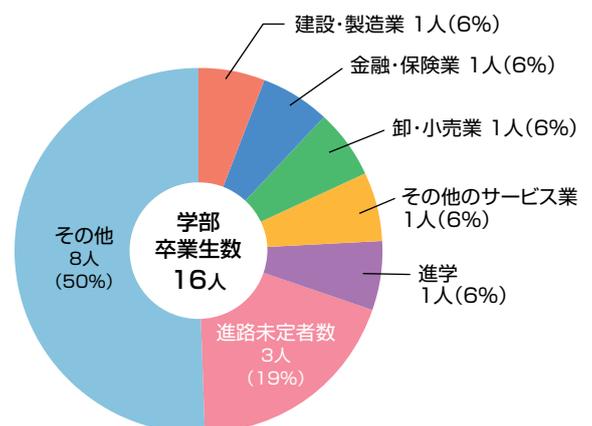
今後も、広い視野と知性を備えた地域を担う人材を育成し、自治体、企業、諸団体の期待に応えていきたいと考えています。

大学院の就職状況に関しては、大学院生には留学生、社会人が多く、留学生は修了後帰国するケースが多いことなどもあり、就職希望者が少ないです。2022年度は、修了生16名の中、日本における就職希望者が7名おり、4名の就職が決まっています。

2022年度 就職状況(学部)



2022年度 就職状況(研究科)



進路

進学・就職

学部 2022年度卒業生進路状況

(2023年5月1日現在;カッコ内は人数で1名の場合は省略)

公務員(35) 公安調査庁 岐阜県(2) 厚生労働省(3) 岐阜県警察 国税庁 稲沢市 国土交通省 一宮市 裁判所 名古屋市(4) 財務省 岐阜市(6) 総務省 土岐市(2) 法務省 美濃加茂市 防衛装備庁 本巣市 愛知県(2) 可児市 愛知県警察(2)	建設(5) (株)ロビン 積水ハウス(株) 大日本土木(株) 中日本建設コンサルタント(株) 日研トータルソーシング(株)	製造業(9) 日本ハム食品(株) 未来工業(株) アイカ工業(株) (株)ジェイテクト 岐阜プラスチック工業(株) (株)アイコットリョーフ イビデン(株) ミドリ安全(株) 日東工業(株)	情報通信(11) (株)ソフィア総合研究所 (株)テクノア (株)プランジスタメディア (株)岐阜新聞社 (株)山口社 NDSインフォス(株) アビームシステムズ(株) エコービジネスソフトウェア(株) スミセイ情報システム(株)(2) 共立コンピューターサービス(株)
金融・保険業(10) (株)愛知銀行 (株)大垣共立銀行 (株)十六銀行(3) 岐阜県信用農業協同組合連合会 岐阜信用金庫(2) (株)ネオライフプランニング 日本生命保険相互会社	生活関連、娯楽・飲食・宿泊業(6) (株)オリエンタルランド 名古屋エムケイ(株) (株)トーカイ BROWN DOT (有)One's Power スターボックスコーヒージャパン(株)	運輸業(2) (株)JR東日本ステーションサービス 三井倉庫サプライチェーンソリューション(株)	不動産(1) 東京海上日動ファシリティーズ
教育・医療・福祉業(7) 学校法人愛知医科大学 学校法人大垣総合学園岐阜協立大学 学校法人名古屋大原学園 (株)トライグループ 刈谷豊田総合病院 (株)キンダーキッズ 社会福祉法人愛知慈恵会	電気・ガス・水道業(2) 中部電力パワーグリッド(株) 東邦ガス(株)	複合サービス業(1) ぎふ農業協同組合	その他のサービス業(3) (株)ワークポート パーソルテンブスタッフ(株) 高石商工会議所
卸・小売業(6) SMB建材(株) イオン(株) 興和(株) ユニー(株) (株)八神製作所 中部薬品(株)	専門技術サービス業(5) (株)名南経営ソリューションズ 大進精工(株) トヨタ・コニック・プロ(株) 辰星技研(株) 税理士法人トライ	進学(4) 岐阜大学大学院地域科学研究科(4)	不明(1) 不明

卒業生数	就職希望者数	就職決定者数	進学者数	進路未定者数	その他	就職率 (就職決定者数 ÷ 就職希望者数)
113名	105名	104名	4名	1名	4名	99.0%

研究科 2022年度修了生進路状況

(2023年5月1日現在;カッコ内は人数で1名の場合は省略)

建設・製造業(1) 石塚硝子(株)	金融・保険業(1) 関信用金庫	卸・小売業(1) (株)Real Style	その他のサービス業(1) 岐阜商工会議所
-----------------------------	---------------------------	----------------------------------	--------------------------------

修了生数	就職希望者数	就職決定者数	進学者数	進路未定者数	その他 ^{※1}	就職率 (就職決定者数 ÷ 就職希望者数)
16名	7名	4名	1名	3名	8名	57.1%

※1 社会人修了生を含む

先輩たちの声

地域科学部 卒業生

2022年度地域科学部卒業 西田 雛さん



こんにちは。2022年度地域科学部地域文化学科卒業生の西田雛です。地域科学部では様々な学問を広く学び、多角的な視点から考察する力を身につけることができましたと感じています。

私は様々な学問を学ぶことができる地域科学部に興味を持ち入学しました。入学当初は法律に興味があり、初年次は憲法や民法など法律の講義を選択し受講しました。グループディスカッションや事例研究では主に、社会問題を見つけて争点を洗い出し、どのような解決策が求められるのか議論を重ねます。これらの講義を受けて、法は社会問題を様々な視点から観察し分析をした上で、厳格に運用されなければならないことを学びました。

2年次後期からの専門セミナーでは言語学を専攻し、卒業研究では短時間で実施可能な小学生版の英語テストの開発を行いました。小学生の英語教育が必修化したことを受け、教師や児童に負担を減らす必要があると考えたことがきっかけです。作成にあたって、先行研究を参考に教授と意見を交わし、より正確な結果の出る形式を考えました。また講義で学んだ統計の知識を用いて分析を重ねました。その結果、小学生の英語力を短時間で測定可能なテストの開発に成功しました。

他にも政治学や福祉・教育学、ジェンダー論、ジャーナリズム論などの講義を幅広く受講し、普段立ち入れないような場所で勉学に励み、貴重な経験をすることができました。

卒業後の進路について、私は法律関係の講義が印象的であったことから裁判所職員を第1志望に掲げ、4月から裁判所事務官として働いています。裁判所では、ウェブ会議を利用した裁判の実施など司法サービスのDX化が進められています。今後は地域科学部で学んだ多角的な視点で考察する力を活かし、司法サービスのIT化に貢献していきたいです。

地域科学部・大学院地域科学研究科 修了生

2019年度大学院地域科学研究科修了 児玉 あいさん



私は、10年間児童福祉施設で働いてきました。子どもや家族への支援を研究したいと思い、地域科学部研究科に入学しました。

研究方法やまとめ方もわからずスタートしましたが、授業は少人数で丁寧に指導していただきました。また、勤務に合わせて配慮してもらえ、安心して取り組みました。

地域科学部は、さまざまな分野の授業があり、児童福祉に一見関係のなさそうな科目が多いと感じ、不安もありました。しかしどの分野でもどこかで児童福祉と繋がっていて、新しい学びを得ることができました。物事を多角的に捉えることから見えてくる新しい気づきは、子どもや家族への支援の幅を広げてくれました。

また、学生や院生の出会いも貴重でした。普段なら出会えなかった研究課題を知り、皆さんの熱量や知識の多さに刺激をもらいました。卒業後も学び合えることに感謝しています。

現在は、児童相談所で勤務しています。卒業してしばらく経ちましたが、大学院で学んだことを今でも思い出します。子どもたちとの関わりのなかで、悩んだり葛藤したりすることが多いですが、さまざまな角度から子どもたちを捉え、寄り添うことができるようになりました。自分自身が悩んだ時に立ち返る場所や自分の中で指針となるものが増えたことは、子どもや家族と向き合う力になります。

大学院では、人との繋がり、多角的に捉える力、自分の軸となるものを得ることができ、とてもいい経験になりました。2年間の学びにとどまらず、そこから広がる人や学びの楽しさを感じていただけたらと思います。

地域科学部の活動と成果

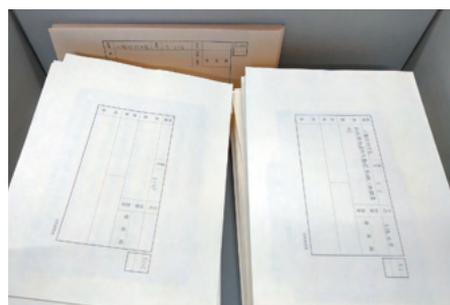


地域資料・情報センター

URL <https://www1.gifu-u.ac.jp/~forest/rilc/>

地域資料・情報センターには、岐阜県内の市町村(平成の合併前の市町村分を含む)の様々な行政・歴史・伝承・文化・観光資料に加えて、500点以上の「水」関係の資料があります。「水」は「ヒト」を含む全ての生物の源であるという観点から、環境・生活・経済・工学・伝承というように、様々な視点から学際的に収集を行っております。特に、岐阜の地域資料として、清流「長良川」の河口堰建設や、徳山ダム建設に関して、50年以上に亘る住民運動の具体的な動き、政治活動、海外環境団体の動き等3000点以上の資料を関係者から寄付していただき、整理しております。これらの資料項目は、一部の個人情報を除き、HP上に乗せ、閲覧、貸し出しもを行います。地域史研究者に活用していただけるようFacebookで案内しています。

また、岐阜県を中心とした東海地域の史料を収集・整理し、目録の作成も行っています。現在は、教育学部が所蔵している「池田郡八幡村竹中家文書」(現・池田町)の史料整理を進めています。竹中家は、江戸時代に八幡村で庄屋をつとめた家で、総数5400点以上にもなる史料群は、村落の紛争や治水、中山道に関する史料など、豊富な内容を含んでいます。年1回発行している『地域史料通信』では、史料整理を進める中で発見した、興味深い史料を紹介しています。昨年度は、「竹中家文書」に伝来している、天保9年(1838)に派遣された幕府巡見使(江戸幕府が全国に役人を派遣したもので、監察制度のひとつ)にまつわる史料を用いて、巡見使に対する村側の対応を紹介しました。今後も、多くの皆様に地域史料の魅力をお伝えし、活用できるよう、目録の作成と『通信』の発行を続けていきたいと思っております。



地域科学部の活動と成果

毒性予測ソフトウェアによる効率的な化合物開発

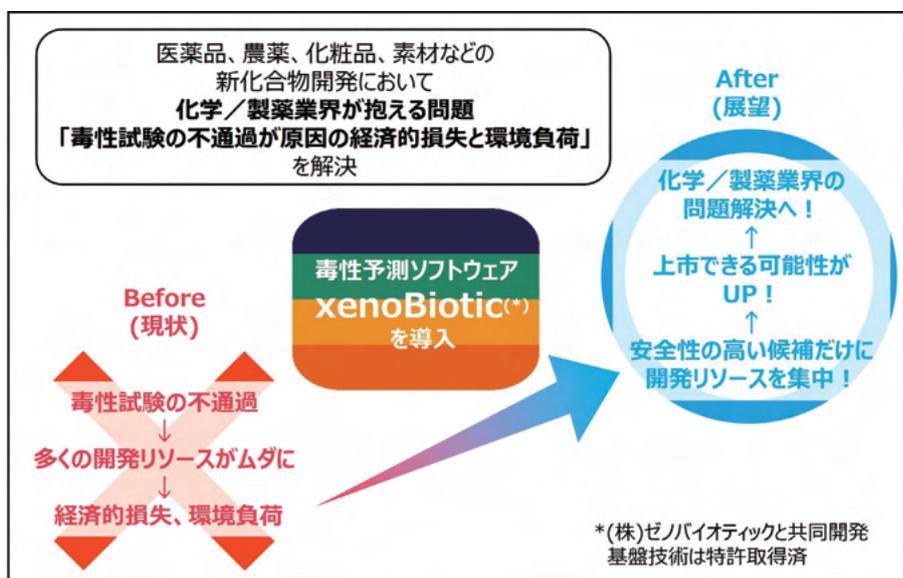
化学メーカーが医薬品や農薬、化粧品、添加剤等を対象として、有益な機能を持つ新しい化合物を開発して売り出すためには、法令やガイドラインに規定された毒性試験を通過しなければなりません。せっかく新しい化合物を開発しても毒性試験が通過できずに失敗する場合も多く、この経済的損失は世界の化学業界全体で年間2000億円以上に上ると推計されます。

この課題を解決するために、私たちは新しい化合物の Ames試験(*) の結果が予測できる化学者向けの毒性予測ソフトウェア「xenoBiotic」を「岐阜大学発ベンチャー」に認定されているゼノバイオティック社(<https://xenobiotic.jp/>)と共同で開発しています。ソフトウェア開発にあたっての基盤技術について特許を取得しました。

また、地域科学部教員5名で企画した「毒性予測ソフトウェアによる効率的な化合物開発の支援」は「地域展開ビジョン2030 地域創生プロジェクト」の一つに選定されました(図)。

新化合物開発において、毒性試験が通過できないために生じる経済的損失などを大幅に低減することができるよう、xenoBioticの予測精度向上および早期実用化を目指しています。

※世界的に普及している遺伝毒性試験。ネズミチフス菌4種と大腸菌1種の計5種の菌が、試験物質によってどの程度の突然変異を起こすかによって遺伝毒性の有無を判定する。



プロジェクト概念図(『地域展開ビジョン2030 地域創生プロジェクト』冊子より)

岐阜大学公開講座（地域科学部企画）

地域科学部では研究成果を公開講座として高校生以上の一般の方々に提供しています。20年間にわたって講義形式のものから「まちあるき」体験のようなものまでバラエティーに富んだ企画を展開してきました。例年、参加者から知的好奇心を満たすことができたという好評を博しております。大学での学びに興味のある方なら、どなたでも無料で参加できますので、是非とも地域科学部の公開講座に足をお運びください。

今年度は次の内容で公開講座を開催します。講座内容は「見えないこと/無いこと/いくつも有ること」(量子化学)、「若者たちが使う「バイト敬語」について」(言語学)、「人間行動と環境の関係を理解するー環境心理学の視点ー」(環境心理学)、「近世ヨーロッパの健康法と長命法」(西欧科学史、思想史)などで準備を進めております。詳細は大学ホームページなどをご覧ください。



高校生のための街なかオープンカレッジ

「地域」が大学での学びの対象となることを体験し、地域での活動に興味をもってもらうため、地域科学部が主体となり、岐阜県の大学が共同で開催する「高校生のための街なかオープンカレッジ」を開催しています。

2022年は、10月に中津川市にて、地元の見慣れた風景をいろいろな「学」を通して再発見する、「地域」を「学」として探究することで「地域で生きる」ことの意味と醍醐味にふれるということを主題としたオープンカレッジを開催しました。地域で活躍する団体の職員などの講義を受け、実際にまちあるきに繰り出し、地域活動の取組について話を聞くなどし、高校生たちが自ら気づくことができる時間になりました。その後のワークショップでは、まちづくりについて考えるとともに、大学での少人数の主体的な学びを体験することができました。

今年度も開催に向けて調整を進めておりますので、高校生のみなさんは是非ともご参加ください。

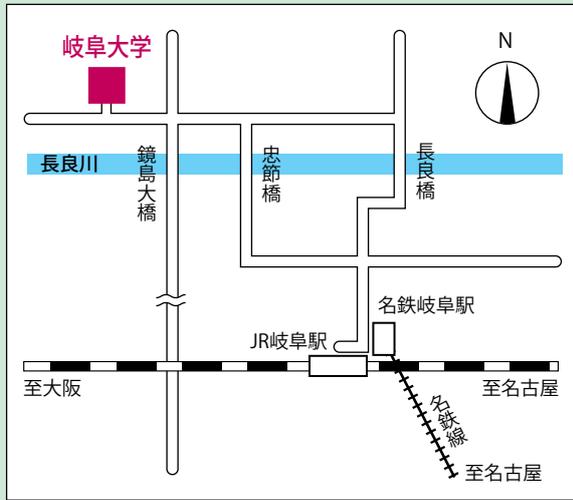


教員一覧

(2023年6月1日現在)

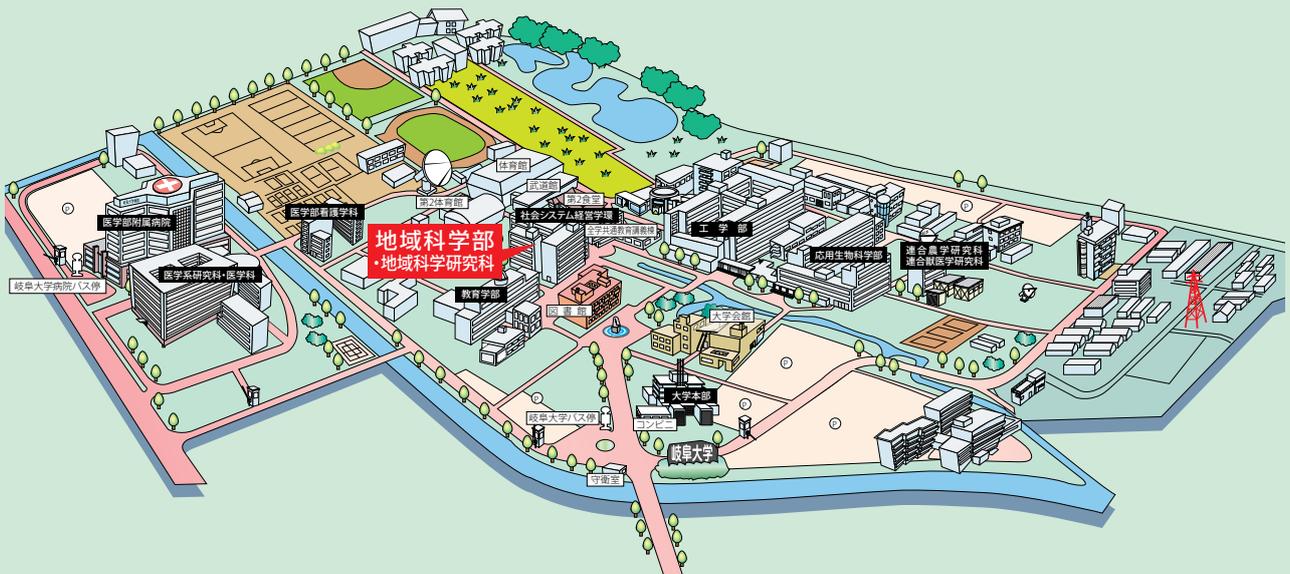
学科	講座	職位	教員名(専門分野)	研究内容のキーワード
地域政策	地域政策	教授	山本 公德(行政学)	現代国家、官僚制、地方行政、公共性
			河合 壘(法学)	雇用(労働)契約の終了、パワーハラスメント、安全配慮義務、契約自由の原則
		准教授	小西 豊(比較経済学)	経済システムの国際比較、比較企業、比較制度分析、企業と社会、CSR
			三谷 晋(行政法)	行政訴訟、行政手続、環境訴訟
			柴田 努(理論経済学)	日本経済論、政治経済学、現代資本主義論、経済のグローバル化
			宇山 翠(経済学)	産業集積、中小企業、産業発展、企業間関係、下請、地域
		助教	小牧 亮也(憲法学)	民営化、憲法の適用範囲、憲法規範の実現、公共性
			鈴木 力(経済学、労使関係論)	労働組合、産業構造と働き方、労働政策、労働争議
		大澤 圭吾(経済地理学、地場産業論)	地域経済、中小企業、繊維・アパレル産業	
	地域環境	教授	和佐田裕昭(量子化学)	電子状態、コンピュータグラフィクス、化学反応制御、溶液内の化学反応
			應 江黔(情報工学)	情報処理、交通システム分析、交通に関する経済問題
			合掌 顕(社会工学)	建築環境工学、バリアフリー、環境心理学、景観評価
			向井 貴彦(保全遺伝学)	生物地理、生物多様性、DNA分析
			神谷 宗明(物性物理学)	密度汎関数理論、線形応答理論、Coupled-Cluster理論、非線形光学
		准教授	橋本 智裕(理論化学)	分子軌道法、励起状態、大気化学反応
			十二村佳樹(都市環境工学)	ヒートアイランド現象、都市環境気候地図(クリマアトラス)、GIS
		助教	中塚 温(統計物理学)	量子モンテカルロ法、自由エネルギー、相対論効果
	地域文化	地域文化	教授	内海 智仁(アイルランド文学)
内田 勝(18世紀英文学)				文化研究、ポップカルチャー、文化史、日常の中の物語
洞澤 伸(社会言語科学)				コミュニケーション、「若者言葉」、携帯電話、ことばと文化・社会
橋本永貞子(現代中国語学)				日本と中国のコミュニケーション、ことばと文化、場面と表現、言語と意味と機能
牧 秀樹(言語学)				生成文法
笠井 千勢(英語教育学)				第二言語習得論
准教授			ゲラン,ジル(フランス語)	フランス語
			フランクシュタイン,アレクサンドラ(ドイツ語)	ドイツ語
			柴田 和宏(哲学史)	西欧初期近代の自然哲学、物質と生命、自然観、哲学史・科学史
			小林亜由美(20世紀アメリカ文学)	アメリカ文化、ジャズ・エイジ、ハーレム・ルネッサンス
助教		府川純一郎(社会哲学)	批判理論、承認論、自然倫理学・美学、善き生	
		野原 仁(ジャーナリズム論)	メディア政策、ジャーナリズムと権力、メディアと市民参加、テレビ文化、映像表現	
地域構造		准教授	伊原 亮司(労働社会学)	管理と労働、技術、組織、権力
			南出 吉祥(生活指導論)	教育・福祉・労働、若者の自立、居場所、支援、貧困
		講師	加藤 公一(現代史)	戦争と平和、国際関係史、現代アメリカ社会
			堀江 未央(文化人類学、地域研究)	家族、ジェンダー、移動、西南中国、少数民族
		助教	峰尾菜生子(心理学)	現在の社会と人間の心理、社会関係の中での発達、社会観、青年期の発達
			芹口真結子(歴史学)	日本近世史、近世宗教史、仏教教団と幕藩権力、民衆教化

Information



ACCESS

- JR岐阜駅から北西へ約7kmの場所にあり、
JR岐阜駅前(北口)・バスターミナル9番のりばから
岐阜バス岐阜大学・岐阜大学病院行きで約30分
(JR名古屋駅からJR岐阜駅まで東海道本線新快速で約20分)
- 名鉄岐阜駅から北西へ約7kmの場所にあり、名鉄岐阜駅前4番、
5番のりば及びバスターミナルEのりばから岐阜バスで約30分
- JR岐阜駅、名鉄岐阜駅からタクシーで約20分



お問合せ先

岐阜大学地域科学部

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

TEL.058-293-3009(ダイヤルイン) FAX.058-293-3008

<https://www.rs.gifu-u.ac.jp/>